
プロポーズ

大見 楚歌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
プロポーズ

【Nコード】
N1839G

【作者名】
大見 楚歌

【あらすじ】
小学校6年生。いきなれた通学路の先には行きなれた学校。何の変哲もない歴史があるといわんばかりのボロ学校だ。どおりでそんな学校の中では、ごくフツウの生徒しかいない。主人公だってそう。しかし、始業式というイベントにより、主人公の生活は一変する……学園系恋愛小説。小6の俺が書きました。

第1話 友の初恋

4月 始業式

ホント全く変わらない校舎だ。春休みの間に工事するって言っていたのになーんも変わってないじゃないか。ひよつとして賄賂でも贈っているんじゃないか？いざ教室に入ってみても相変わらず殺風景だ。いつもながらの教室なら聞こえがいいが、これだけ地味だともやる気になれない。・・・ってなんかいやな足音がするんなあ。無視しよう。

木田 何顔かくしてんだよ！オレがそんなにブサイクだったか。

矢橋 うるせえ！（ったくお前とは会いたくない！あれのせいで春美とコイビトとか言われておれちよー恥ずかしかったんだよ！）なんで1学期早々オレのところに来るんだよ！

木田 話がある。

矢橋 どなんだ。（ひよつとして・・・）工事の件か？

木田 あいにくだが、違う。でも、気になる話だとは思っよ、お前は特に。

矢橋 早く言えよ。

木田 いいニュースと悪いニュースどっちを先に聞く？

矢橋 どうでもいい。

木田 じゃぁいいニュースから。とうとうゴリラが教養界から去った。

矢橋 エッ…マジかよ

木田 それも今行方不明なんだってさ。

矢橋 これがいいニュースか？ふざけるな。これのどこがいいんだよ！

木田 実はなあ。きつかけが春休みの事件なんだよ。

矢橋 ……（こりや聞かざるをえない。オレが徹底的にかかわってしまったもんなあ。）

木田 悪いニユースいくぞ。

矢橋 なんだよ。

木田 ゴリラがあのお級裁判がきっかけで、やめたんだ。センセイ。

矢橋 ……！うそつけ！

木田 ……！うそつけ！

矢橋 なんでそこでタメる。お前さつきからお前らしくないぞ。

木田 あたりまえだろ。オレの友達であるお前が徹底的にかかわってんだからとうぜんだろ？

矢橋 （友達だったのかよ……）いったいどういうことだから教える、それでお前は満足だろ？

木田 ひひひ。乗ったね？

矢橋 気持ち悪いな。早く言えよ。

木田 へへ。お前が知っているかぎりでは春休みの事件はどんな感じなんだ？

矢橋 えっ。（俺が言うのかよ……）教室に1人で残っていた坂巻春美が、教室にあった林間学校の集金が盗んだって言う疑いがあって、ゴリラが学級裁判を開いて、俺が弁護士になって、逆転無罪っていう話だよな。

木田 やっぱりね。お前でも気づかなかったか。

矢橋 どういうことだ？

木田 オレ不思議に思ったんだよ。なんでゴリラが学級裁判開いたかわかるか？

矢橋 フツウだろ、教師として。

木田 ゴリラは体罰教師だろ？

矢橋 （……！）そういえば不自然だな。

木田 だろだろ？なんかうらがあるはずなんだ。

矢橋 お前さ、ゴシップ記事を書くセンスもなかなかだけど、捜査もするんだな。

木田 オレの父ちゃんも新聞記者でさ、血を引き……って関係ないじゃないかよ。

矢橋 どうぞ”うら”をお話ください。

木田 おう。アリバイが不自然なんだよ。

矢橋 オレがついたヤツか。そりやそうだろ。ゴリラの職員会議は完全下校後の13:30〜13:45で、坂巻がいたのは残っていたとはいえ、13:25分に、保健室の先生が帰っているのを目撃しているんじゃない。

木田 そのあとどうしたっけねえ。

矢橋 エッ。犯人捜しはやめにしよう。ってゴリラがいったよな？

木田 それだったら集金も今は無いはずだろう？

矢橋 あっそつか。林間学校行けたもんな。

木田 ってことは、センセイが集金をかっぱらったってことだろう？

矢橋 えっ！！でも、そんなことをする動機なんて無いはずだろ？横領にもなって自分の進退にも関係するからさあ。

木田 実は、職員室の教頭先生が開いた職員会議ってのはさあ。ゴリラの進退に関するものなんだよ。

矢橋 ……！その進退なら俺がかかったことあるかもしれない。保護者がたくさんいたところで、ゴリラが1年生にセクハラしているのを見て、”刑法176条で起訴してやる！！”って言ったことはある。

木田 それの仕返しだと考えられる。坂巻春美を教室にセットしてあとは学級裁判を開くだけだ。

矢橋 で、なんでおれが弁護士にならないといけなかったんだよ。

木田 ひひひ。ざまあみろ。

矢橋 いま”ざまあみろ”って小声で言っただろ。

木田 おれのせいだよ。だから悪いニュースなんだよ。ごめんな。言いふらして。

矢橋 ゴリラが勘違いしたってことか？オレと坂巻がコイビトだって。

木田 そう。坂巻が有罪になったらお前はショックを受けるだろうって思っただろうな。

矢橋 じゃあ何で坂巻春美だ？他の女子でもいいじゃないか。

木田 アイツリーダーだろ？

矢橋 なんのだよ。

木田 お前ホント女子をわかってないな。坂巻春美はゴリラの娘をいじめてるように見えていた。

矢橋 あの”自作自演”の話か。仕立てたんだよな。ゴリラの娘が。

木田 もう理由がわかっただろ？それだけだ。

矢橋 ありがとな。

木田 30分前と大違いだな。笑っちゃうよほんと。

矢橋 (っ)

?? これより授業を始めます。私の名前は坂巻優子。よろしくね！

木田 やさしすぎて生徒に学級崩壊になってきたセンセイとして有名ならしいぞ。

優子 木田君！！しゃべるのをやめなさい。あなたのことは大谷先生からきいているわよ。注意して行動しましょうね。

木田 よーし。ゴシップ記事完成！！タイトルは”新任先生、あのゴリラとコイビト”だ！

優子 こら！いい加減にしないで！！鈴木くん！学級委員として注意してください！

都築 鈴木じゃなくて都築です！！

木田 先生！！都築君の学級委員としての任期はもうとくに期限が切れてまーす！

優子 いい加減にしないで！！・・・遅くなっちゃったけど、初めての授業をします！！

木田 その内容は保健体育のあの部分です。

優子 うるさい！！えーと、算数の授業を始めます。日直は相田君と、飯田君ね。挨拶をして頂戴。

相田 おはようございます。

ガッハッハッハッハ・・・

優子 これから算数の授業を始めます！では、今日は立体の体積の

勉強をしよう。

矢橋（あつ礼っていわないんだ。やっぱ新任の先生だな。あつ、なんかメモがきた。”センチの体積をスライド式に求めると、約700000cm²”つくつくつく）

優子 なにそこわらっているの！！しまいなさいその紙。

矢橋（なんだ、きづいていたのか。きもい先生だ。）

そのあとは全く授業に集中できなかった。昨日から徹夜していたせいもあったが、なによりセンチの性格が生徒として気になったからである。また、ほかの事をぼーっと考えながら俺は少しにやけながら時間をつぶしていった。

キンコーンカーンコーン

矢橋（サイレン・・・じゃなくてチャイムがつまらない空間に間抜けに鳴る。ようやく1時間つぶせてまあよしとしよう。そして考えていたことも話さなきゃな。）木田！！ちよつとこい。

木田 なんだよいきなり。目が輝いているな。

矢橋 おまえ坂巻春美のこと・・・好きなんだろう？

木田・・・っ。そんなわけねーだろ？べべべつにきににかけてていたわけではないし。

矢橋 どんだけ緊張してんだよ。ラブレターわたしてやろうか？っはっは。

木田 じゃあよろしく。

矢橋 えっ。凶星かよ。って逃げるな！！（しかたがない、渡してやるか・・・）

悪夢（前編）

第2話 悪夢（前編）

事実上友達である木田に、恋人へのプロポーズの代理をまかせられ、（というか相手に先をよまれてまんまとひっかかったってわけだ）どうやってさりげなく渡そうかかんがえながら初日の4時間目をつぶそうとしていた。残るチャンスはあと帰りの会のすき間と、放課後だけである。帰りの会ならさりげないけど味気ないし、放課後ならゆっくり渡せるけどなんか変で、相手も帰ってしまう。やっぱり帰りの会のときにしよう。そうして決断のときがきた。

木田 もう渡したか？

矢橋 そんなに余裕あるんなら自分で渡せよ。（そうだけ。これでオレがまた恥かいたら死んでお前を恨んでやる。）

木田 お前知らなかったの？

矢橋 何がだよ。

木田 学校ではラブレターっていうのはな、友達に渡してもらうのが流行なんだよ。なっ！春美！

矢橋 （あ、あいつやりやがった。俺より勇気あるじゃねえか。）

坂巻 えっ・・・まあ・・・私の聞くところではそうよ。うーん。でもね、将来的には渡した人のほうがコイビトになるケースが多いみたい。あゆみちゃんだってそうでしょ？

矢橋 木田？そんなのか？

木田 ……あゆみちゃんの件は聞いてるぜ。1年のとき高城が相田に恥ずかしいからってラブレターを任せたら、今は相田に取られてるって話だろ？

坂巻 そんな感じよ。

矢橋 （今思いだしたって顔しているよなあ木田。とにかく友達伝説はほんとうだったらしい。）

木田 つでさ、こんな流れでなんだけどラブレターなんだよな。これ、もらつといて。

矢橋 （！いつのまになんで奪いやがったあいつ！）お前さっきまではオレが渡すっていうことになっていたじゃねえかよ！！おまえってヤツは……！

木田 ああ、春美、気にしないでいいから。こいつあの……あれだから、その……オタク。

矢橋 うそつくな。ゴシップ記事かいていたら浮気するんじゃないの？（チヨットオレヤバイコトイッテルナ）

木田 まあってことでよろしく！

その日の帰り道は本当につらかった。6年間一緒に歩いてきた家への帰り道。唯一の沈黙である。何も話せない……話したい……けどいえない……気まずい雰囲気だ。

そんな空気の中で最初に口を開いたのは木田だった。

木田 ……あのさ……

矢橋 ……なんだよ……

木田 ……ちよつと聞いてくれるか？

矢橋 ……悩み事か？……

木田 ……かもな。

矢橋 ……何だよ……

木田 いっしょにあの駄菓子屋まで競争しない？

矢橋 （なんだ、それだけか。）

木田 よーい。

矢橋 ちよつとまった、プランを立てさせてくれ。（オレは競争するときはプランを立てている。どのコースが最短か……そして走りやすいか……力の出しどころ……父ちゃんの受け売りだ。）

木田 かわんねえな。

矢橋 あ？

木田 変わんないってよ。お前は幼稚園のころからそういう癖があった。何事も計画を立てる。とくに、走るときは。

矢橋 まあな。（幼稚園の運動会するとき、オレはビリだった。でも、無駄なく走れば、1位になれるってそう思ったんだ。父ちゃんにその方法も教えてもらったし。オリンピックのコーチをやっついて、今もスポーツアドバイザーをやってるからの確で、狂いが無かった。そしていまもだ。）

木田 人生意気あたりばかりだぜ？

矢橋 ああこわいこわい。

木田 よーいドン！

タッタッタッタッタッタッタッタッタ

ドドドドドドドドドドドドドドドドドド

はあはあはあはあはあ

矢橋 くつくつくつく

木田 何がおかしいんだよ。

矢橋 いや、お前の走り方幼稚園のころからかわんねえなって思ってたさ。

木田 おかしくねえよ。

矢橋 （すねてやがる。）・・・なんか話あるはずだろ？

木田 えっ・・・何にもねえよ。

矢橋 ほんとに？

木田 ほんとだって。

矢橋 ほんと？

木田 ほんつくつくくががはははははは

矢橋 なに笑ってんだよ。

木田 お前さ・・・おでこに算数の答え書いてあるぞ、鏡文字で。

矢橋 えっ、まじ？

木田 家かえって確かめろよ！

矢橋 あ、うん。サンキュー。

木田　じゃあな。

矢橋　じゃあな。

なんとなくその日はその日は木田との関係も好スタートを切り、ハッピーエンドにおわると思っていた。でも、星が出ているときに起こるなんて想像もつかなかった。

悪夢（後編）

その悪夢というものは・・・突然襲ってきた。約・・・23時ごろか。12歳のオレは漫画を読んでいた。初めて買う”その手の漫画”だったため、フツウの人なら多少はワクワクするのだろうが、木田からもらった本ということもあり、興奮は南極みたいに冷めていた。しかしそれでも、木田が他人にばらすなと釘をさすので、もちろん親に気づかれぬよう電気は最小のものにしていた。暗いところに入るとすぐに寝てしまう俺は、悪夢に遭遇してしまったのである。

矢橋・・・・・・・・・・どこすか、ここは・・・
・・・・・・・・・・（見るとなんか・・・なんともいえないような空間に入っていた。あと・・・なんか穴がある。）

坂。順くん！

矢橋 どこかで聞き覚えがある声だな・・・そうおもえば順なんて最近呼ばれてなかったな。

。巻 わたしだよ。わたし。気づいてよ・・・。

矢橋 えっ・・・・・・・・ひよっとして坂巻か？

坂巻 晴美でいいよ。そっちの方がいいやすいし。

矢橋 つてさ。こっつてどこなんだよ。ひよっとしてどこかの異次元じゃねえだろうな。

坂巻 実は・・・そうらしいの。少なくとも3次元ではなさそうよね・・・。

矢橋 はあ？（無茶いうなって。おれはそんな次元に迷い込む義務も権利もないはずだぞ。）

坂巻 おどろかないの？

矢橋 おどろいてるさ。これほど驚いたことは無い。

坂巻 ここから脱出できないの？

矢橋 オレにすぎりつくなって・・・おまえここに入ってきたとき

はどうだったんだ？

坂巻 わからない。何かに吸い込まれてきたような気がする……

矢橋（どういうことだか全くわからん）これってひょっとして出
口ないのか？

坂巻 さつきから気になってただけど・・・あそこ穴が無い？

矢橋 ある。(ここに来たときにきになっていた・・・) はい、
てみるのか？

坂巻　そうしかないみたい。
 きや　ああああつ！

矢橋　　ってまで！（吸い込まれたみたいだな。）

[illegible]

坂巻　ここ学校じゃない！

矢橋 戻ってきたっていうことか？

坂巻　よかつたあ。

矢橋　　って泣くなよ。たどり着いたんだから。

坂巻 わたし順くんがくるのずっと待っていたんだから……

矢橋（ううう。なんでオレの足にしがみついているんだよ。突き放すわけにも行かないし．．）帰ろう。

坂巻
どこ？

矢橋 家に決まってるだろ。

坂巻 うん。ありがとね・・・

バ
タ
ツ
・
・

矢橋　おい大丈夫か？晴美！

•
•
•
•
•
•
•
•
•
•
•

それからというもの、学業も体力も中ぐらいのオレは、21世紀の大発見！ともいうべき大活躍をしていた。坂巻をしょって学校からでて、坂巻の家の前まできて、ちょうどいいタイミングで坂巻が目をさめ、（気絶は演技だったのかもしれない。）自分の家に帰るところが出来た。

そして午前3時、ようやく就寝した・・・

現実の世界に帰った俺は、午前3時に突然目が覚め、首をつりたいような思いになりながらも、坂巻ってあんなにかわいかったっけ・・・（いつもの強引でリーダーな感じではなかった。）と妄想していた。そのうち夜見ていた漫画のことを思い出し、かばんの中に入れた。当然また寝られるわけも無く、新発売されていた銭湯・・・ではなく戦闘ゲームシリーズで暇をつぶした。

そんなこんなで、学校に行く憂鬱な朝である。校舎が見えたとたん、今日起きてきてから目をそらしてきた問題が頭をもたげたのだ。その問題っていうのはなあ・・・

木田 よう矢橋！ずいぶん眠たそうじゃねえか。どうしたんだい？

矢橋 ……お前がくれたあの漫画・・・俺を苦しめたみたいだ。木田 どういうことだよ。校門の前で会うのはめったに無いことなのになんでそんなに喜ばない？

矢橋 今日はお前に話すことがありすぎるようだ。話に乗ってくれな。

木田 めずらしいな。別にいいけど？

矢橋 騒ぎ立てるなよ。

木田 もちろん！

それからというものの、昨日から今日にかけてみた悪夢を説明し、これは病気なのか尋ねた。

木田 ……恋だな。

矢橋 恋？

木田 ああそうだ。お前は坂巻に恋をしている。心のどこかでな。

矢橋 別にそんな関係は無いんだけど。

木田 表向きはそうなんだろ？

矢橋 えっ……………

木田 あとで坂巻に聞いてみ。昨日どんな夢を見ていたのか。

矢橋 ……。ところでさ、この漫画返すよ。

木田 ああわかった。

休憩時間に木田と会話したことは、ちょっとした事実としてのしかかってきた。

放課後

矢橋 あの…。坂巻。

坂巻 なに？

矢橋 きのうどんな夢見た？

坂巻 寝ている夢。

矢橋 (……。) それだけ？

坂巻 それだけ。それがどうかしたの？

矢橋 いや、なんでもない。ちよつと気になっただけ。

坂巻 ああそう。ならよかった。

そのときからだった。坂巻の視線を妙に感じるようになったのは。そして坂巻も自分のことを観察していたのであった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1839g/>

プロポーズ

2010年10月22日00時12分発行